

「神奈川県無電柱化推進計画（素案）」に関する提出意見及び意見に対する
県の考え方

○ 意見募集期間 2019年3月25日（月）～2019年4月23日（火）

○ 意見提出者数 4人

○ 意見提出件数 8件

○ 意見内容の分類

意見内容区分	件数
ア 無電柱化の方針に関すること	4件
イ 無電柱化の施策に関すること	3件
ウ その他	1件
合 計	8件

○ 県の考え方

意見反映区分	件数
A 反映した意見	0件
B 既に反映している意見	3件
C 今後の参考とする意見	4件
D 反映できない意見	0件
E その他（感想、質問等）	1件
合 計	8件

整理 番号	内容 区分	ご意見	意見 反映 区分	県の考え方
1	ア	<p>緊急輸送道路を無電柱化するのは、重要で急いでほしいが、その場合でも、災害をイメージして重要な所から急いでほしい。</p> <p>例えば、高速道路の IC 付近から手を付けるとか。市役所などの重要機関、隘路の周辺を手を付けるとか。</p>	B	<p>本計画では、防災の観点から、緊急輸送道路において、発災直後の迅速な応急対策活動に重要となる市町村庁舎などの災害対策本部周辺を優先して無電柱化に取り組む区間としております。</p>
2	ウ	<p>電柱の倒壊を防ぐのも対策になると思う。</p> <p>例えば、鳥居の様に補助柱を付けるとか。安上がりに支線を引くとか。場所があれば、電柱への衝突対策も兼ねて太いゴムカバー巻くとか。電柱地中化だけが方策ではないと思う。</p>	E	<p>既存電柱の倒壊防止対策は、防災力の向上につながるものですが、本計画は無電柱化の推進に関するものであるため、その他のご意見として承ります。</p>
3	イ	<p>新しい技術を導入してほしい。又、新しい考え方で行ってほしい。</p> <p>例えば、歩道が広い場所では、歩道下に施工するなど、道路工事による渋滞回避策、地震で下水管が浮き上がって使えないなどのようなことがないように、軟弱地盤に対する新しい工法など。</p> <p>いっそミニシーリングマシンなどで道路下を貫通させては如何。20km30kmなら返って安上がりかもしれない。交通に全く影響ないし。大き目の下水管を引くようなものか。</p>	B	<p>本計画では、国の動向やモデル施工の結果等を踏まえ、新技術・新手法である浅層埋設方式や小型ボックス埋設方式の採用に向けた検討を進めることとしております。</p> <p>なお、電線共同溝方式による無電柱化では、自動車交通への影響を最小限とするため、電線類は歩道に埋設することを基本としております。</p>
4	ア	<p>道路の無電柱化については、景観のみならず、狭い道路の隘路を減らして、カラスの糞害対策やリスによる電線へのかみつきによる停電・回線停止を防ぐ意味でもぜひ積極的に取り組んでいきたい。</p> <p>その為には、自治体および地区ごとに数値目標を設けて進捗管理を強化していくことが重要である。</p>	B	<p>本計画では、実施計画箇所として事業に着手する区間や延長について数値目標を定めております。</p> <p>この目標について、適切な進行管理のもと、無電柱化を推進してまいります。</p>

整理 番号	内容 区分	意見要旨	意見 反映 区分	県の考え方
5	イ	<p>海岸付近の低い地域では、埋設より道路沿いに高架歩道橋を作り、下側をボックス化して歩道の下に線を引けば、津波避難路としても一石二鳥になる。交差点の歩道が道路沿いにずっとある感じ。</p> <p>東日本大地震でも、高架橋で難を逃れた市民が多かったので、道路沿いに高台まで、または、ビルまで続いていると、沢山の人が助かる。値千金とは、このことである。</p>	C	<p>道路沿いに高架歩道橋を作り、下側をボックス化して歩道の下へ電線を添架させるご意見ですが、沿道利用への影響などの課題があるため、ただちに、本計画へ反映はできません。</p> <p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
6	ア	<p>P 3では、防災、安全・円滑な交通確保、景観形成をもとに無電柱化の推進をしているが、例えば天災や生物による断線など緊急時の行政の対応については明記されていない。</p> <p>住民が安心して無電柱化を受け入れるために、その問題点や対策を明記した上で推進した方が良いと思う。</p>	C	<p>本計画は、無電柱化を推進するため、今後の基本的な方針、目標、施策等を定めたものであり、電線の管理については記載しておりません。</p> <p>ご指摘の断線などの緊急時の対応につきましては、現在も電線管理者と連携を図って、適切に対処しているところです。</p> <p>今後も住民の方々が安心して無電柱化を受け入れられるよう、4. 4) 広報・啓発 (P 8) に記載のとおり、取り組んでまいります。</p> <p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
7	ア	<p>P 4について、優先区域を指定しているが、財政的問題もあると考えられるが、地震による倒壊が大いに考えられる地域や鳥の害が多発している地域なども含めるのが良いと思う。</p>	C	<p>本計画では、地震時に倒壊して道路を塞ぐおそれのある電柱をなくすことを無電柱化の目的の一つとし、防災の観点から、緊急輸送道路のうち、発災直後の迅速な応急対策活動に重要となる災害対策本部周辺の道路の無電柱化を推進することとしております。</p> <p>また、鳥の糞などによる景観への影響については、本計画では、景観形成の観点から、景観計画等で定められた地区、主要観光地周辺、駅前商店街の目抜き通りを特に重要な区間として無電柱化事業に取り組むこととしております。</p> <p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>

整理 番号	内容 区分	意見要旨	意見 反映 区分	県の考え方
8	イ	<p>6頁、4. 無電柱化の推進に関する施策等、1) 無電柱化の事業手法に関して「直接埋設方式」の採用を検討してみてはどうか。</p> <p>「直接埋設方式」は無電柱化が概成している海外では主流であり、また日本国内でも既に実証実験が行われていることから実現可能な手法といえる。メリットとしては、圧倒的にコストが低い・工期が短いということが挙げられる。</p> <p>他方、デメリットとしては断線の可能性が高いということが指摘されている。</p> <p>しかし、これは「樹脂パイプ」を取り入れることによってクリアできる。樹脂パイプは耐久性に優れている。腐敗しない・摩擦に強い・振動を軽減するといった特徴があるため、ケーブルを覆うように樹脂パイプ使用すれば、断線を十分に防ぐことが出来る。</p> <p>また、樹脂パイプはその特性（軽量・柔軟）により、設置・回収が簡単であり、さらに複雑な設計が可能であるため、コンクリートトラフと比べ施工性にも優れている。加えて、共同溝や小型ボックスのように幅を取らないため、道幅が狭い日本の道路に適しているといえる。</p> <p>直接埋設の実用化にあたり、常設作業帯の設置が交通に与える影響が大きいことは理解している。だからといって全く採用しないというのではなく、海外の事例を鑑みて部分的にでも採用していくべきだと考える。</p>	C	<p>直接埋設方式による埋設用ケーブルや舗装版への影響について、国等において実証実験が行われているところで、実現可能な手法ではあるものの、現時点では、実用化に向けた検討段階であるとの認識です。</p> <p>このため、直接埋設方式については、国等の動向を注視することとし、いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>